

大阪21世紀協会広報誌『OSAKA*文化力』 バックナンバー紹介

関西・大阪のオピニオンリーダーや芸術、音楽、伝統芸能などに活躍する人々にスポットをあて、提言や日頃の活動を紹介します。協会活動や企業メセナ、イベント情報など多彩な話題を掲載しています。季刊発行で、大阪21世紀協会の法人・個人賛助会員の皆様などにお届けしています。大阪21世紀協会ホームページでもご覧いただけます。

HYPERLINK "<http://www.osaka21.or.jp/>"
<http://www.osaka21.or.jp/>

■バックナンバーをお譲りします。

大阪21世紀協会までお問合せください。
財団法人大阪21世紀協会
〒540-0032大阪市中央区天満橋京町1-1
☎06(6942)2001 FAX06(6942)5945



No.101 (2008年／春号)

世界初の細胞融合に成功した岡田善雄氏(大阪大学名誉教授)と、JT生命誌研究館館長の中村桂子氏に、関西における生命科学の未来像を聞く(巻頭)。武田佐知子大阪大学副学長に「21世紀懐徳堂」開設の目的を聞く(大阪文化考)。表紙は同氏。



No.102 (2008年／初夏号)

ブロードウェイミュージカルを大阪で初演した出口最一氏(演劇プロデューサー)と、ミナミ活性化委員会の中西俊臣氏が大阪の演劇文化を語る(巻頭)。全国初の“食の大学院”設立に向け、発起人の石毛直道氏(国立民族学博物館名誉教授)にもインタビュー。表紙は出口最一氏。



No.103 (2008年／秋号)

「好きやねん大阪」キャンペーンの間違い、大阪が「都」になったらどうなるかなど、山崎正和氏(劇作家・大阪大学名誉教授)の考えを聞く(巻頭)。東京生まれ育ちの浪曲師・春野恵子氏が、大阪で感じる空気や大阪浪曲界の現状を語る(大阪文化考)。表紙は山崎正和氏



No.104 (2008年／冬号)

関西のブランディング運動やクラシック振興などの今後について、関経連副会長の寺田千代乃氏と関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者・藤岡幸夫氏に聞く(巻頭)。漫画家・里中満智子氏が、大阪の文化歴史遺産公開にアイデアを語る(大阪文化考)。表紙は同氏。



No.105 (2009年／春号)

財政難による文化事業予算の大幅削減への危機感から、大阪文化の灯を守る緊急座談会(21cafe拡大版)を特集。水都大阪2009のプロデューサー・北川フラム氏に、大阪の都市再生に果たすアートの役割を聞く。表紙は同氏



No.106 (2009年／夏号)

水都大阪の再生に活躍する佐藤茂雄氏(京阪電鉄代表取締役CEO)、伴一郎氏(伴ビジュアル代表取締役)、二見恵美子氏(E.M.Iプロジェクト代表)を招き、大川・中之島周辺での船上座談会を収録。表紙はそのときの三氏。



No.107 (2009年／冬号)

宮原秀夫氏(情報通信研究機構理事)とヤノベケンジ氏(大型機械彫刻作家)が、科学と芸術のコラボレーションの近未来像を語る(巻頭)。表紙は有森裕子氏(NPO法人スペシャルオリンピックス日本理事長)。



No.108・109合併号(2010年／春号)

平成22年1月実施の「関西・大阪文化力会議2010」を詳録。各界のオピニオンリーダー 35名が、関西・大阪が抱える文化的課題と文化力向上への方策を探る。表紙はチェリストの林裕氏(平成21年度大阪文化祭賞グランプリ受賞)。



No.110 (2010年／夏号)

OSK日本歌劇団のトップスター桜花昇ぼる氏と大阪歴史博物館館長の脇田修氏をまじえ、レビューから古代難波宮まで、時代や地域を越えてつながる関西の文化を語る(巻頭)。表紙は桜花昇ぼる氏。



No.111 (2010年／冬号)

免疫系で重要な働きをする「セマフォリン」を世界で初めて発見し、平成22年度の大坂科学賞を受賞した熊ノ郷淳氏(大阪大学教授・医学博士)に、免疫学がリードする医療革新について聞く(巻頭)。表紙は箏演奏家の片岡リサ氏(平成22年度大阪文化祭賞受賞)。